

児童相談センター午後のセッション

Tomlinson 氏と治療スタッフの座談会

日時；2013年10月31日13:00~14:20
(治療指導部門パオの見学後、ピザをいただきながらのセッション)

場所：児童相談センター新庁舎 研修室

講師：パトリック・トムリンソン

出席者：治療指導課スタッフ：治療指導課長 治療指導係長 心理職 A、心理職 B、心理職 C、作業療法士 D

読売新聞記者；小林

国立武蔵野学院：徳永祥子(通訳協力)

プロジェクト代表：開原

以上10名

録音記録編集：開原久代



開原：では自己紹介からお願いします。

A：心理士です。

小林：小林ともうします。部外者でお邪魔しています。読売新聞の記者をしております。いろいろなトラウマをどうケアするかという中で、今、施設から里親へと言う流れがあると思いますが、こうするにあたっての課題を特集でとりあげたいと思い、施設や里親への支援の問題について開原先生に教を乞おうとしましたら、こういうセッションがあって、トムリンソン先生が来られるということを知って半分押しかけてまいりました。よろしくをお願いします。

B：心理士です。Aさんと二人一緒に、施設に子どもが措置されている虐待した父親や母親のファミリー・ジョイント・グループや、虐待した母親のカウンセリングを担当したり、児童養護施設を訪問して職員へのコンサルテーションをしています。

C：臨床心理士ですが、今はこのレジデンシャルケア部門(ばお)で子どもをみています。

トムリンソン：ここに3人のセラピストがおられますが、サイコセラピストとして日本ではどんなトレーニングを受けているのですか？

B：日本には心理士の国家資格がなくて、これから出来る方向にあるのですが、民間の心理士の資格をとる人が多いです。それには、まず大学院の修士課程を卒業して、試験を受けるのです。大学院では、病院とかクリニックで実習をしなければなりません。

C：大学院によって内容の濃さに違いがあり、大学の中には、相談室を設けて、いろいろなケースを担当して、毎週、2年間コンサルテーションを受けることができる場所がありますが、大学院によっては自分で実習先を探して1カ月だけ実習をするだけという場合もあります。

B：資格をもっている心理士もあれば、持っていない心理士もあり、日本では統一した資格を持っていないのが特徴です。東京都の場合は、心理職の公務員試験で採用されています。サイコセラピストになるには、英国の方がハードルは高いのでしょうか？

トムリンソン：子どものカウンセラー、認知行動療法家、力動精神療法家などと、子どもの精神分析家がありますが、子どもの精神分析のセラピストになるには長いトレーニングが必要です。精神分析のセラピストのところから、3年間通い、直接教育分析を受けなければなりません。精神分析、赤ちゃん観察、セラピー、ケーススタディをスーパーバイザーから受けなければなりません。資格がとれるかは、スーパーバイザーの意見にかかっていますが、試験はありません。伊東先生がおっしゃっていたように、トレーニングは時間とお金がかかり、特に、子どもの精神分析家は長いトレーニングが必要なので、セラピストとしてはカウンセラーは多いですが、子どもの分析家は少数です。皆様ご存じのタピストッククリニックが、児童分析で有名です。

英国の最近の傾向ですが、米国では大分前からですが、短いセラピー-brief therapyへとシフトしています。それまでは、子どもでも1年、2年とセラピーを受けることがありましたが、英国では伝統的な方法でトレーニングを受けても仕事がないので伝統的なセラピーをする人が減ってきています。

(自己紹介の続き、開原、課長、係長は省略してDに)

D: 作業療法士です。月2回、治療指導課で、幼児の感覚統合療法をやっています。

A: 他のスタッフから質問を預かっているのですが、よろしいですか?

英国の施設では、学習の支援をどうやっているか聞いてほしいと言われているので。

トムリンソン: 子どもたちで、読み書きや基礎知識がない子には1対1の学習支援をしています。ある子どもは、地域の学校に行きますが、クラスで1対1の対応を補助の人を配置してもらってやる場合があります。今日、講演でお話した子どもたちは、施設内の学校で対応していました。子どもがトラウマを受けた年齢まで戻って対応することが大事なので、~2歳でトラウマを受けた子どもには、読み書きではなく、遊びを大事にします。ふつうの親が幼児にしているように、12歳の子どもでも基本的には本の読み聞かせを最初にやります。

それで、子どもたちは追いついてゆくこともありますが、子どもたちは、学校から追放されたりプレッシャー体験があるので、プレッシャーを除いてあげることも大事です。経過的には実年齢に追い付くことがわかっています。

治療指導課長: 経験的にはわかっていますし、子どもはそのとおりに取り組んでいるのですが、一般の施設ではそういう風に切り替えられないので大変です。

トムリンソン: 同じことが私の働いた施設でもありましたが、大変でした。12歳の子どもには12歳の勉強をさせていた職員の考えを変えてゆくの3年から5年かけて改善させたことがあります。子どもにプレッシャーをかけるのは有効でないというエビデンスがあるといいですし、議論があればいいのですが。

開原: 調布学園でも同じ質問があり、施設ではボランティアが学習を助けているけれど、英国はボランティアではないということでしたが、確認させて下さい。

トムリンソン: ボランティアではなくフルタイムの職員が学習をみています。地域の普通の学校に行く場合、施設内の学校に行く場合がありますが、学校に経験のある教師がいて学校で学

ぶこともありますし、施設のケアラーが取り組むこともあります。

B: 英国では、学校にそうしたニーズのある子どもがいれば政府はエイドのお金を出すのですか。日本は35人の子どもに一人の教師と決められているので。

トムリンソン: 時にクラスにアシスタントがつきます。3人の子に1人というように、そこにお金をかけなければ、クラスは崩壊してしまいます。英国では義務教育でも10年前までは、すぐ退学させていましたが、学校に来なければ問題を外でおこしているわけですからサポーターをつけることは理解されています。最近は、なんとか学校にとどめようとしています。

A: 日本では、学校で受け入れてくれなくて、施設に一杯子どもが残っていてカオス状態になっているところがあります。

小中学生で、学校に来ない子は、学校は受け入れてくれないのです。昼間、子どもが一杯で施設は大変です。

トムリンソン: 英国でも、同じことがあり、子どもが施設に長くいるのでスタッフは非常に疲れてしまいます。ミーティングも出来ないのです。

(自己紹介の続き。残りの徳永さん)

徳永: 国立武蔵野学院で今年から、夫婦で寮を担当しています。その前10年間は大阪の児童自立支援施設阿武山学園で夫婦で仕事をしていました。その前はアイルランドと英国で児童福祉を学びましたが(ソーシャルワーカーですかという質問)若い時の留学でしたので、ソーシャルワーカーの資格をとるには21歳以上でなければならなかったためそのコースではなく、ソーシャル・コミュニティ・ケアの国家資格をとりました。

開原: ひとつおりの自己紹介が終わりましたが、どうすすめましょうか?

治療指導課長: ここの施設をごらんになって、また宿泊 部門(ばお)をどう思われましたか?

トムリンソン: とにかく新しくてクリーンで、手入れがゆきとどいています。英国では、多くの建物は古くてみずばらしいですし、特に政府施設や病院はくたびれ果てていますので。

ここの宿泊部門（ばお）は子どものために設計されていて、玩具や絵なども子どものことをよく考えていることがわかります。

ここをよりよい場所にするには、子どもにどうすればよいか聞くことが大事です。親御さんにも聞くことです。

以前は、子どもの視点で取り組まれなかった時期があり、私が以前働いていた施設が、それまでは思春期の子どもがいたところに幼児が入ることになったのですが、鏡の位置が高いところにあったり、コート掛けのフックが届かないところにあったりして大変でした。

子どもの環境のことを考えるなら、子どもの意見を聞いて取り入れることです。そうすれば子どもは自分が尊重されていると感じ、環境に愛着をもつようになりますが、このように、数か月だけの滞在だと難しいかも知れません。入所期間が2~3年なら子どもが気に入るように替えてゆくことが出来ますが。

昨年、日本のある施設を見学させていただきましたが、冷蔵庫の中が空っぽでした。（黙ってあげたんですか？という質問）愛情剥奪やネグレクトなどで入所する子どもは飢えているので、子どもが入所する家（里親家庭やグループホーム）に食べ物一杯があると安心するのですが――。

私が最初に働いていた治療的コミュニティ（コッツワルド・コミュニティ）では、冷蔵庫の中にミルクを沢山置いていました。何かトラブルがある時はミルクの消費量が多くなりました。

今朝、講義で観察の大切さを話しましたが、ミルクの消費量を見るだけで子どもの状況を知ることが出来ます。



C：いろんな視点があっても、そのことに気が付かないのです。ミルクの消費量をみるという

着眼点に気が付かないのですが――。

トムリンソン：ありがとう。とても大事な点です。ただ、いろいろな視点がいつも正しいわけではないのです。

私が寮長をしていた時、寮に戻ったらプレイルームの中が、カーペット、天井、凡てがペイントされていてショックを受けました。抽象画家の Jackson Pollock の画のように、いろんな色、赤、黄、グリーンペンキが使われて散乱していました。もともと、大工さんが使っていたペンキの残りが置き忘れてあったのでした。子どもたちはプレイルームの鍵を締めて塗っていたのでした（楽しそう！という声）。

それで、我々は二つのことをやらなければならなくなりました。一つは、片づけること。もう一つはどうして、彼らはこんなことをしたのかを考えることでした。

この時期、3~4人の男の子たちの中で性的な関係が発生していました。セラピストは感じていたのですが、踏み込めない時でした。このことをきっかけに、性的な問題について話し合うようになりました。

皆さんは英国ではやっているゲーム、クルード（CRUDE PLAY）を知っていますか？誰が殺人を犯したのかを当てるゲームで、登場人物の名前が、マスタード氏、ピーコック夫人、グリーン氏というような名前、誰が殺人をしたのか、どの部屋で、どの武器を使ったのか、ナイフかなどを当てるゲームで、ふうつの子どものゲームです。（開原：シャロックホームズのお国柄ですね）

実は、新しいボランティアの人が寮に来ていまして、その人がそのゲームの登場人物を壁に描いてくれてあったのです。その絵のある部屋にペンキをまき散らしたわけで、子どもたちの言い分は「殺人犯は誰かという絵に見守られているのは嫌だったから」と言うのです。

ボランティアの方は、子どもを楽しませようとして画いたのですが、一部の子どもはその画に興味し、性的な問題のある子どもはみつかるのではないかと不安になったのです。

このことを子どもたちと話し合う中で、結果として、片づけは、大人も手伝うけれど、互いに助け合うと早く終わることを伝えました。手伝ってくれないと、大人だけだと時間がかかるから、夕方からのサッカーを一緒に出来ないねと

伝えました。張本人たちも 2~3 日たつと手伝ってくれるようになり、1 週間たつと、問題のなかった子どもたちも手伝ってくれました。

Reparation により新しい環境をつくったのです。

(資料 里親ケアモデルから) 43.Consequences 1
結果

しかし、子どもたちに彼らの行動の結果には、肯定的か否定的かの結果があることを理解させることは重要である。

我々は、彼らの行動の肯定的な結果について、たとえ否定的な結果の方が多くても同じように理解することを支援する必要がある。

これは、子どもたちが自分たちは傷つけたり、破壊することが出来ることをあまりによく知っている、自分たちが喜びを与えることをしたり、他人の気分をよくすることを考えたことがないからである。彼らは自分たちは他人にとって無意味な存在で、自分たちが影響力を持ちなんらかの意味を感じる唯一の方法は挑戦的であることとしばしば感じている。

我々が子どもに彼らの行動の否定的な結果について理解させ、可能ならそれを修正するために何かをする必要がある時、その行動への結果が妥当で論理的であればあるほど、子どもはよく理解するのである。

たとえば、もし子どもが家の中の何かを壊した時、早く直かしつけられるより、それを修理するのを助けてやるのがもっと妥当である。壊された物を修理するのを支援することは自然な結果として理解される。

B：宿泊環境のセラピーとしてケアワーカー同士、こうした養育方法を共有しているのですか。トレーニングなどで手法があるのですか？

トムリンソン：1960~1970 年代は、英国政府は、治療的コミュニティという入所施設を沢山作り、日常生活の場を治療的な機会としてとらえることが強調されました。その頃は、サイコセラピーの理論を使った取組が盛んで、単なるトレーニングではなく、毎週スーパーバイズを受けることによりスタッフのレベルが保たれていました。

ただ、過去 20 年の間に、英国では大規模の施設は否定され閉鎖されてゆきました。そして、この 10~20 年は虐待にフォーカスが注がれ、子どもを死なせないようにすることが強調され、結果として治療的施設、開原先生たちが 2011 年に訪問した SACCS センターがリーダー的役割をとっていますが、そういうところがどんどん少なくなっているというのが現状なのです。

治療指導課長：もっと、お話を伺いたいのですが、予定の時間過ぎてしまいましたので、ここで終了させていただきます。有難うございました。

開原：今日のお話と関連した情報は、配布した資料の中に含まれておりますので、下手は翻訳ですが、ご参照ください。

終了